



## 【第38回卒業式 学校長式辞】

寒さの中にも春の訪れを感じる、この早春の良き日に、本校、第三十八回卒業式が、来賓の方のご臨席を賜り、盛大に挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

さてあらためて、三年間の中学校課程を終え、本校を巣立っていく38期生のみなさんに教職員を代表して心からお祝いを述べたいと思います。「ご卒業おめでとうございます。」

不安と期待に胸を膨らませた入学式から三年、今日の卒業式は、この過ぎ去った三年間を静かに振り返り、そして、皆さん一人ひとりがこれから出発する、それぞれの未来に向けて、覚悟を新たにする門出の日でもあります。

これからは、自分で選んだ道を自分の足で歩み、迷いながらも自分で進むべき道を探していかなければなりません。人の一生は、木に年輪、竹に節があるように、いくつかの節目があります。

竹は節があるからこそ、強風でも簡単に折れません。

中学卒業という「節目」を経て、より成長し、竹のように強くしなやかに生きてほしいと思います。

それでは、九年間の義務教育を終えるみなさんに、私から二つのことをお伝えします。

一つ目は「感謝」です。三年間、十八中を支えてくれたみなさんに心からお礼を言いたいと思います。

「ありがとうございました。」

十八中の伝統を受け継ぎ、新たな歴史の一ページをつくってくれたことに「感謝」申し上げます。

自分は何もしていないと思う人が、ひよっとするといえるかもしれませんが、決してそうではありません。

何かを成し遂げたり、記録を残すことは確かに歴史をつくることにはなりますが、学校の伝統を受け継ぎ、歴史をつくる上で最も重要なことは生徒の存在です。みなさん一人ひとりが十八中生として、泣いたり笑ったり、先生方や仲間からいろんなことを学んでくれたおかげで、十八中の歴史をつくり、つないでくれました。

そして1、2年生は間違いなく、みなさんの姿を見て憧れを抱き、行事や生徒会活動、委員会活動、そして部活動に目標をもって、学校生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

そして、これからも十八中をよろしくお願いします。

二つ目は、「人との出会いを、大切にしてほしい」ということです。

皆さんが、この今を生きているのは、皆さんにしか出来ない何かがあると思ってください。

人は、無駄にこの世に生まれてくるわけではありません。幸せになるために、生まれてきたのです。

そして、本当の幸せは、人との出会いの中に訪れます。

皆さんの才能をぐんぐんと伸ばしてくれる人がいます。真剣に叱ってくれる人がいます。

逆に、皆さんの才能を押しつぶす人やただ過保護に守るだけの人もいます。

人は、自分の気に入る事ばかりに囲まれていては、少しもタメになりません。

自分の気に入らない、耳の痛い事を聞いたり、自分の思い通りにならない事があればこそ、自分を向上させるチャンスなんだと考えるようにしてください。ピンチはチャンスです。

どの人が、どの言葉が、自分を本当に幸せにするのか、見分ける力をつけてください。

そして、一つの道が閉ざされると別の道が開かれるものです。しかし、私たちは、閉ざされた道を、ずっと後悔して見てしまっているのです。自分のために新しい道が開かれていることに、気づかないでいる事が多くあります。皆さんの未来に広がる人生には、多様な選択肢、道があります。

「人の世に、道は一つということはない。道は百も千も万もある」これは坂本龍馬の言葉です。

焦ることなく、腐ることなく、めげることなく、自分のために開かれている「新しい道」を見つけ出してください。

人はどんな人と出会うかで人生が変わります。

素晴らしい人との出会いを願っています。「人との出会いを、大切にしてください」

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

お子様を三年間お預かりいたしました。必ずしもご満足いただける教育ができなかったかも知れません。

しかし、私たち教職員一同、全力で教育活動に取り組んでまいりました。

お子様たちが生きる、これからの時代は、AIの時代と言われています。

急速に移り変わる時代の変化に対応する力が必要とされると予想されます。

しかし、そんな時代でも本校で学んだ人権教育を土台に、自分を見失わないよう、自分らしく、一步一步自分のペースで前向きに生きてくれることを信じております。

本日卒業するお子様たちを、「手を離しても目を離すことなく」「目を離しても心を離すことなく」

いつまでも深い愛情で見守ってください。

この三年間、本校の教育活動やPTA活動、地域活動にご協力とご支援を賜りましたこと、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、皆さんが生きるそれぞれの道で必ずや活躍してくれるものと信じ、最後に私から一言、メッセージを贈ります。私の大好きなプロ野球阪神タイガースの元監督、野村克也さんの言葉です。

「「失敗」と書いて、「せいちょう」と読む。」

青春時代の失敗なくして、人としての成長なんてありません。

三十八期生の限りない前途を祝し、私の式辞といたします。

令和8年(2026年)3月13日

豊中市立第十八中学校

校長 三輪 穂久登